

学長定例記者会見要項

日 時： 2019年1月17日(木) 11:00～11:45

場 所： 法人本部第二会議室(小白川キャンパス法人本部棟4階)

発表事項

1. 世界初ケミカル研磨による曲がる有機ELパネル開発に成功
～山形大学硯里研究室と(株)NSCの共同研究成果～
2. 産学官連携によるデータサイエンス教育の推進
～平成31年度 文部科学省共通政策課題に採択～
3. 結髪土偶の左足みつかる～約90年ぶりの再会～
4. 日本学生フロアボール選手権大会で山形大学男子が2連覇!

お知らせ

1. 平成31年度大学入試センター試験の取材について
2. エリアキャンパスもがみ 活動報告会を新庄市で初開催
3. 山形大学特別イベント「文学と歴史の舞台 江戸・東京を歩く」について
4. 山形大学農学部・東北森林管理局連携シンポジウム
「森林・林業・山村の再生と新たな森林管理システム」について
5. 「平成30年度 第8回やまがた教員シンポジウム」を開催します
6. 国際シンポジウム「日台における宗教と思想研究」開催
～日本と台湾の仏教と儒学に注目して～
7. モンテディオ山形杯「雪中棚田サッカー大会in大蔵2019」の開催について

(参 考)

次回の学長定例記者会見(予定)

日 時：2019年2月7日(木) 11:00～11:45

場 所：法人本部第二会議室(小白川キャンパス法人本部棟4階)

学長定例記者会見（1月17日）発表者

1. 世界初ケミカル研磨による曲がる有機 EL パネル開発に成功 ～山形大学硯里研究室と(株)NSCの共同研究成果～

学術研究院 准教授（有機EL外ロクスイパ[®]-ションセンター担当）

株式会社NSC 生産技術本部技師長

すずり よしゆき
硯里 善幸
たむら たつひこ
田村 達彦

2. 産学連携によるデータサイエンス教育の推進 ～平成31年度 文部科学省共通政策課題に採択～

理学部長

たまたま ひでとし
玉手 英利

3. 結髪土偶の左足みつかる～約90年ぶりの再会～

附属博物館長

学術研究院 教授（地形学）/附属博物館学芸研究員

附属博物館

あらみや まなぶ
新宮 学
やぎ ひろし
八木 浩司
おしの みゆき
押野 美雪

4. 日本学生フロアボール選手権大会で山形大学男子が2連覇！

山形大学サリバディ部キャプテン（人文学部4年）

たんの こうよう
丹野 鴻洋

2019年1月17日

世界初ケミカル研磨による曲がる有機ELパネル開発に成功 ～山形大学硯里研究室と(株)NSCの共同研究成果～

【本件のポイント】

- 山形大学硯里善幸准教授と株式会社NSCはケミカル研磨技術を用いたガラス基板がベースの曲がる有機ELパネルを世界で初めて開発した。
- 車載用ディスプレイなどはデザイン上の観点から湾曲した有機ELパネルが求められている。本技術は、曲げた状態で固定する有機ELパネルを、安価に信頼性高く提供することが可能である。



【概要】

車載用ディスプレイなどはデザイン上の観点から湾曲した有機ELパネルが求められている。山形大学硯里善幸准教授と株式会社NSC（代表取締役：川久慶人、大阪府豊中市）はケミカル研磨技術を用いたガラス基板ベースの曲がる有機ELパネルを世界で初めて開発した。本技術は曲げた状態で固定する用途における有機ELパネルを、安価に信頼性高く提供することが可能である。

封止構造を硯里研究室が、ケミカル研磨を株式会社NSCが担当し、今回200×100mmサイズ、厚さ0.15mm、R=100mmの湾曲を可能にした有機ELパネルを試作した。本試作品は2019年1月16～18日に開催されているオートモティブワールド展（東京ビックサイト）に出展している。本研究は、経済産業省サポイン事業（戦略的基盤技術高度化支援事業）の支援を受け行っているものである。

【背景】

有機ELはスマートフォン・TVなどのディスプレイ分野で普及が進んでいるが、自動運転への技術開発が進む自動車産業においても、車載用ディスプレイ、インジケータ、ランプ類などへの有機EL応用は特に期待されている。車載用ディスプレイでは車内デザインが重要であるため、湾曲したパネルが求められている。しかしながら有機ELは水蒸気や酸素に対して敏感に劣化するため、水・酸素のパネル内部への侵入を厳重に抑制する必要がある。フレキシブル有機ELを達成するには、これまでに2つの方法があった。①基板として樹脂を用い樹脂上に無機薄膜からなる水分バリア層を多層積層する方法と、②薄膜ガラス（厚さ<0.1mm）を用いる2つである。①に関しては、水分バリア性能をガラス並にするために無機薄膜を多層積層するため、非常に高価になることが問題である。②に関してはガラスであるため水分バリア性能は非常に高いものの、その薄さから製造プロセス中に破損しやすいなどの問題がある。

【研究開発成果】

株式会社NSCは、ケミカル研磨（化学研磨）法を用いたガラス基板の加工技術を保有する企業である。今回、山形大学硯里研究室と(株)NSCは、ガラス基板をベースとした有機ELパネルのケミカル研磨により、安価な曲がる有機ELパネルの開発に、世界で初めて成功した。本研究は、経済産業省サポイン事業（戦略的基盤技術高度化支援事業）の支援を受け行っているものである。本技術の特徴は、通常厚のガラス板（厚さ0.5mm）に有機ELデバイス、封止構造を完成した後に、ケミカル研磨法を用いパネル総厚を0.15mmまで薄くし湾曲を可能とする点である。この手法の利点は、有機ELデバイス部を作製する際、通常のガラス板のハンドリングで良いため、薄膜ガラスのように破損する恐れがなく、またケミカル研磨工程を導入するだけであるため、設備投資が少なく曲がる有機ELパネルが製造できる点である。加えて、ケミカル研磨は物理研磨に比較して微細な傷（マイクロクラック）が入りにくく、本来のガラスの強度を保つことが可能であることも本技術の利点である。

お問い合わせ

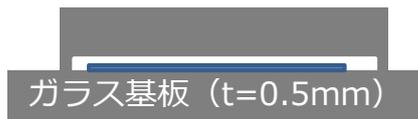
- ・山形大学 学術研究院 准教授（有機エレクトロニクスイノベーションセンター担当） 硯里善幸
Tel 0238-29-0577 e-mail suzuri@yz.yamagata-u.ac.jp
- ・株式会社NSC 生産技術本部
Tel：06-6862-5025（代表）

本技術を達成するには、大きく 2 つの課題を解決する必要があった。①大型ガラス基板の精密ケミカル研磨技術 ②本技術に最適な封止構造 の 2 つであり、主に①を株式会社 N S C が、②を硯里研究室が担当した。今回、本技術検証の一環として 200mm×100mm サイズのケミカル研磨加工した曲がる有機 EL パネルを作製した。ケミカル研磨した有機 EL パネルの総厚は 0.15mm であり、R=100mm の湾曲を可能とする。本封止構造は 2 枚のガラス板を用いた封止構造を用いているため、一枚のガラス板の厚さは約 0.07mm まで超薄型化している。また封止構造も 0.01mm に留めている。

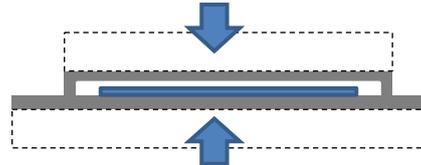
本パネルは、2019 年 1 月 16~18 日に開催されているオートモティブワールド展（東京ビッグサイト）に出展している。

本開発の狙い

総パネル厚 1mm 以上

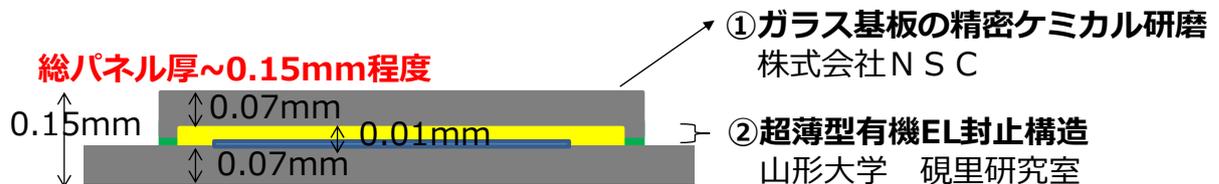


ケミカル研磨による超薄型化



ガラス基板ベースの曲がる有機ELパネル
安価・高封止性能

本開発課題



- 支援プログラム 経済産業省サポイン事業（戦略的基盤技術高度化支援事業）
H29~31 年度 事業総額 1.5 億円
「車載・屋外フレキシブル有機 EL パネル用大型・高強度ケミカル加工と封止構造の開発」
<http://www.chusho.meti.go.jp/keiei/sapoin/2017/170728SenryakuKoubo1.pdf>

- 作製パネル
 - ・サイズ 200×100mm
 - ・パネル厚 0.15mm
 - ・湾曲性能 R=100mm
 - ・特徴 ケミカル研磨による超薄型有機 EL パネル（ガラス基板）
一枚のガラス厚：0.07mm
エリアカラー方式 透明有機 EL（発光色：R,G,B）
封止構造：ダムフィル構造（0.01mm）



- 展示会
 - ・オートモティブワールド 2019 [国際] カーエレクトロニクス技術展
日時：2019 年 1 月 16 日（水）~18 日（金）
会場：東京ビッグサイト 東ホール ブース：E40-37 山形大学 硯里研究室
<https://www.car-ele.jp/ja-jp.html>

【今後の展望】

本技術はガラス基板がベースであるため、折り曲げスマートフォンに利用するようなフレキシビリティは持っていない。しかしながら車載を始め、曲面で固定して取り付けるような用途に関しては、安価に保存性の高い有機 EL パネルを提供することが可能である。今回、曲がる有機 EL パネルの試作品に成功したが、産業化に向けた課題も残されているため、経済産業省サポイン事業を通じ、引き続き開発を継続する。

2019年1月17日

産学官連携によるデータサイエンス教育の推進

～平成31年度 文部科学省共通政策課題に採択～

【本件のポイント】

本学申請プロジェクトが、平成31年度文部科学省共通政策課題「数理・データサイエンス教育強化経費」に採択。
実学志向のデータサイエンス教育を推進する山形大学データサイエンス教育研究推進センターを設置。
産学官連携により、地域ニーズに対応したデータサイエンス教育の充実を目指し、その成果を東北地域の中小規模大学へ還元する。

01001011101001010100
10011010101010010101
01010001110101010110
10001011000101010011
10001011101001010110
01101101011011010101

【概要】

本学が申請したプロジェクトが、平成31年度文部科学省共通政策課題「数理・データサイエンス教育教科経費」に採択されました。（支援期間は2019～2021年度の3年間で、支援金額は1千500万円（初年度）の予定。）

本プロジェクトは、山形大学データサイエンス教育研究推進センターを新設した上で、地域ニーズに対応した実学志向の教育コンテンツを開発し、全学的な数理・データサイエンス教育を行うものです。具体的な取り組みとして、本学理学部のデータサイエンスコースカリキュラムをモデルケースとして、数理・データサイエンスの新たなカリキュラムの開発・効果検証を行い、それを基に中小規模の公私立大学および短期大学向けにそれぞれの大学のニーズに応じたコンテンツを開発し、本学に事務局を置く加盟校13校の大学コンソーシアムやまがた⁽¹⁾と加盟校53校のFDネットワークつばさ⁽²⁾を通じて、東北地域の中小規模大学でのデータサイエンス教育の推進を支援します。また、データサイエンスに関する一連の科目を修了した学生を「データサイエンスマイスター」として認定し、企業等とのマッチングを支援するなど、地域社会の多様なニーズに応える教育プログラムの整備を行います。

【実学志向のデータサイエンス教育】

山形大学では平成29(2017)年度から理学部にデータサイエンスコースカリキュラムを新たに設けて、低年次からのデータサイエンス教育を開始しています。さらに平成30(2018)年にデータサイエンス推進室を立ち上げるとともに、「データサイエンスcafé」を始めとする様々なデータサイエンス教育に取り組んでいます。中でも特徴的なものとして、産学官との連携によるデータサイエンス教育が挙げられ、企業や自治体からデータの提供を受け、実データを用いた分析を行っています。本プロジェクトでは、これらの取り組みを全学的に拡大し、現実のデータを用いた実学志向のデータサイエンス教育を推進します。

【カリキュラム及び教材の開発】

本学理学部データサイエンスコースをモデルケースとし、データサイエンス教育カリキュラムを開発・検証します。開発する教材には全学的な教育推進を見据えたオンライン学習向けコンテンツを含みます。

【東北地域の中小規模大学との連携】

大学コンソーシアム・FDネットワーク加盟校にデータサイエンス教育に関する情報を提供し、本学で開発するカリキュラム・オンライン学習教材を基に、大学コンソーシアム・FDネットワーク加盟校のニーズに合わせたコンテンツ開発を行います。この際には、各大学の規模や学生数、カリキュラムの専門性に依りて、複数の組み合わせから選択可能なカリキュラム群の開発を目指します。

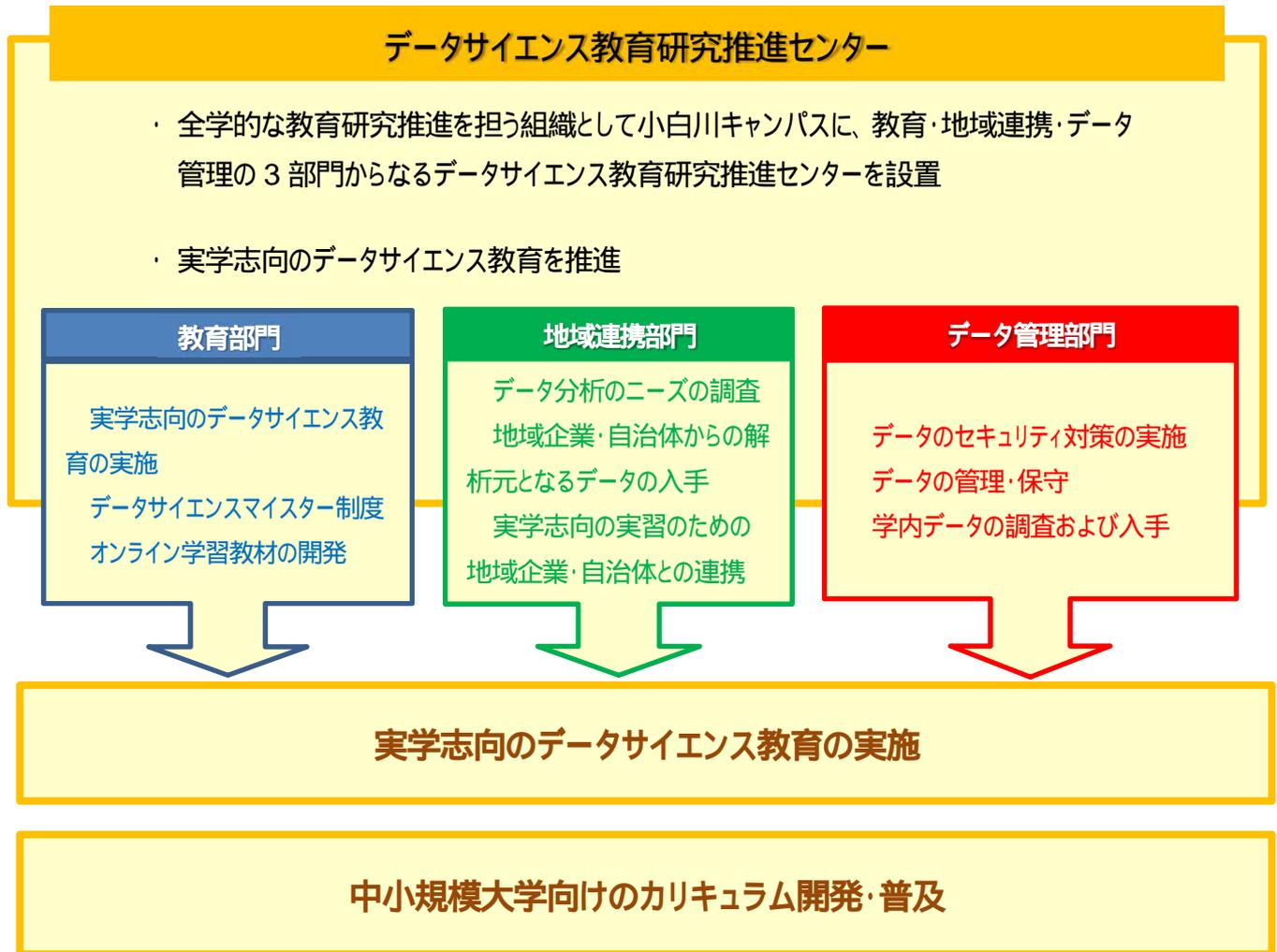
【データサイエンスマイスター制度】

データサイエンスに関連する一連の授業により履修プログラムを構成し、一定以上の成績を収めた学生をデータサイエンスマイスターとして認定します。また、データサイエンスマイスターに認定された学生をオンライン

学習におけるTA（ティーチング・アシスタント）として雇用します。一定の能力が認められた学生のみをTAとして雇用することで、オンライン学習に対する質の保証につなげます。

【山形大学データサイエンス教育研究推進センターの設置】

以上のプロジェクトを推進するにあたり、データサイエンス教育研究推進センターを設置します。本センターは教育部門、地域連携部門、データ管理部門の3つの部門がそれぞれの役割を担い、互いに協力しながら事業を実施します。



特徴

地域企業・自治体との連携に基づく**実学志向**のデータサイエンス教育
理学部データサイエンスコース、小白川キャンパスデータサイエンス推進室の運営による**データサイエンス教育の実績**
連携教育機関への**成果の還元**とそれによる地域社会のAI対応支援

- 1 大学コンソーシアムやまがた：山形県内の大学・短期大学・高等専門学校・放送大学等の教育機関と山形県の連合組織で、平成16年4月に設立。相互に連携し交流を推進することにより、山形県内の高等教育の充実・発展を図るとともに、各大学の知的資源を有効に活用して地域社会に貢献することを目的としている。
- 2 FDネットワークつばさ：教育改善の連携・共有と特色ある教育の開発を目的に、2008（平成24）年度設立。連携する大学・短大・高専におけるファカルティ・ディベロップメント（FD）の立ち上げ・確立・発展を協同で行う。現在53校が加盟。

お問い合わせ 学術研究院教授 脇 克志（理学部担当）
TEL 023-628-4637 メール waki@sci.kj.yamagata-u.ac.jp
学術研究院教授 中西正樹（地域教育文化学部担当）
TEL 023-628-4428 メール m-naka@e.yamagata-u.ac.jp

2019年1月17日

結髪土偶の左足みつかる ～約90年ぶりの再会～

【本件のポイント】

- 脚部が欠損した状態で山形大学附属博物館が所蔵していた結髪土偶^(※1)の左足を発見。
- 寒河江市所蔵の出土遺物の中から、郡山女子大学短期大学部教授 會田容弘氏(本学人文学部11回卒)の指摘により判明。
- 脚部が新たに見つかったことで、全体像の復元や山形県の縄文文化の研究が進むことが期待される。



【概要】

山形大学附属博物館所蔵の結髪土偶(高さ15cm、肩巾16cm)は大正末頃寒河江市の石田遺跡^(※2)より出土しましたが、長らく脚部の存在は不明のままでした。しかし、郡山女子大学短期大学部教授 會田容弘氏の指摘により寒河江市所蔵の土偶脚部(安達宣也氏寄贈考古資料)が結髪土偶の一部であることが分かりました。これをうけて、寒河江市と話し合い、このたび正式に寄贈されたため、上半身と左足を並べて展示することが可能となりました。

昭和26年頃右胸から下を石膏で復元しましたが、これを取り除き当初の姿に戻すことを検討しています。その後、上半身と左足を接合した状態で展示する予定です。(高さ約20cm)

【経緯】

当該結髪土偶は、寒河江市の石田遺跡より出土し、大正末頃寒河江の大地主安達又三郎が所蔵していました。同じく、脚部も安達又三郎が収集したことが分かっています。そして、上半身は西村山郡教育会の郷土博物館へ、足はそのまま所蔵者の家に伝わりました。その後、上半身は西村山郡教育会から山形県教育会の郷土博物館、そして山形師範学校の郷土室(山形大学附属博物館の前身)に移り、足は寒河江市に寄贈されました。

昨年7月、郡山女子大学短期大学部教授 會田容弘氏の指摘により、寒河江市所蔵の土偶脚部が本学所蔵の結髪土偶の一部であることが断面の状態や腰の刺突文^(※3)が足に続いている点などから分かりました。これをうけて、寒河江市と話し合い、このたび正式に寄贈されました。

【今後の展望】

左胸から裏にかけて石膏で復元した部分が接合するにあたって邪魔になるため、これを取り除くことを検討しています。その事前調査としてX線CTを行いました。この画像や映像も結髪土偶と一緒に見ていただけるよう現在計画中です。

今年の夏には、寒河江市で「里帰り展」が計画されています。その際は地元の方々に是非見ていただきたいです。

※用語解説

1. 結髪土偶：頭部が髪を結ったような形をしている土製人形。縄文時代晩期、遮光器土偶の後に出現する。県内では真室川町釜淵遺跡出土の結髪土偶(正源寺蔵)が国指定重要文化財になっている。当館所蔵の結髪土偶は欠損部から中が空洞であることがわかる。また、沈線に赤色顔料が残っているため、当初は全体が赤かったと考えられる。
2. 石田遺跡：寒河江市石田のJR左沢線石田踏切付近。大正10年村山軽便鉄道(左沢線)の線路敷工事で縄文時代や弥生時代の遺物が大量に出土、その後昭和44年に村山食品株式会社(現サンヨー缶詰株式会社)の工場拡張工事現場から遺物が出土。昭和55年には石田遺跡の畑地で宅地造成のための工事で弥生時代の再葬墓が発見された。
3. 刺突文：棒状の道具で突いてできる小さなくぼみの文様。

お問い合わせ

小白川キャンパス事務部総務課 山形大学附属博物館(押野美雪)

TEL 023-628-4930 メール hakukan@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

2019年1月17日

日本学生フロアボール選手権大会で山形大学男子が2連覇！

【本件のポイント】

- 第8回日本学生フロアボール選手権大会（2018年12月開催、主催：日本フロアボール連盟）男子の部で、山形大学が昨年に続き2回目の優勝
- 最優秀選手には、キャプテンの丹野鴻洋さん（人文学部4年）が選出。山形大学からの選出も2年連続。



【概要】

2018年12月22日（土）、23日（日）に駿河台大学体育館他で開催された第8回日本学生フロアボール選手権大会（主催：日本フロアボール連盟）男子の部において、山形大学が優勝しました。山形大学を含む6大学が参加したこの大会には、サリバンディ部が男子の部、女子の部でそれぞれ出場しましたが、女子は予選リーグで敗退。男子は予選リーグを1位で突破し決勝へと駒をすすめ、駿河台大学との決勝戦では、接戦を延長で制して、昨年に続き2回目の優勝を飾りました。また、最優秀選手には、キャプテンの丹野鴻洋さん（ポジションはオフエンス/人文学部4年）が選出されました。最優秀選手も2年連続で山形大学から選出されています。

【大会概要】

大会の名称：第8回日本学生フロアボール選手権大会

大会の期間：2018年12月22日（土）～23日（日）

主催：日本フロアボール連盟

会場：駿河台大学体育館（埼玉県飯能市）、稲城市総合体育館（東京都稲城市）

参加大学：国土舘大学、駿河台大学、仙台大学、千葉大学、東北大学、山形大学

※試合結果の詳細は日本フロアボール連盟のホームページをご覧ください。

http://www.floorball.jp/floor_tournament/detail.html?id=176

【フロアボールについて】

スウェーデン発祥のスポーツで、北欧で盛んな室内ホッケー競技。1チーム6名（ゴールキーパー含む）で、スティックを使ってプラスチック製のボールを相手チームのゴールに入れて得点を競います。

本学では「サリバンディ部」（フィンランド語でフ



ロアボールの意味。平成16(2004)年設立)が小白川、米沢、鶴岡の各キャンパスで活動中。部員は男女あわせて約70人。入学してからこの競技をはじめた学生たちがほとんどですが、これまでには、学生日本代表チームに選ばれる選手も輩出しています。（2014年、2016年、2018年に各1名）

（お問合せ先） 山形大学総務部総務課広報室
電話 023-628-4008

2019年1月17日
山形大学

*詳細は別添の資料をご覧ください。

1. 平成31年度大学入試センター試験の取材について

既にお知らせしておりますが、小白川キャンパス、米沢キャンパス、県立鶴岡中央高等学校、県立新庄神室産業高等学校の4会場で実施する大学入試センター試験の取材にあたっては、各試験会場責任者の許可が必要です。試験の円滑な実施にご協力をお願いします。

取材申込み期限：2019年1月17日（木）正午まで

2. エリアキャンパスもがみ 活動報告会を新庄市で初開催

最上地域をバーチャルキャンパスとして開講しているフィールドラーニングの活動報告会を新庄市で初めて開催します。これまでは、小白川キャンパス内で学生と授業の関係者だけを対象として開催してまいりましたが、学生達が最上地域での活動を通して感じたこと、考えたことを、ぜひ最上地域の皆様にも知っていただきたく、広く一般の方を対象として新庄市内で開催することとしたものです。

日時：2019年1月26日（土）14：00～16：00（開場13：30）

会場：新庄市民プラザ 大ホール

3. 山形大学特別イベント「文学と歴史の舞台 江戸・東京を歩く」について

山形大学地域教育文化学部の前身、山形師範学校出身の藤沢周平氏や山形県川西町出身の井上ひさし氏などの時代小説・歴史小説の主要な舞台となった江戸の面影残る東京で、町歩きと落語口演を実施します。

日時：2019年3月8日（金）10：00～16：30

会場：お茶の水女子大学ほか

申込み開始：2019年2月5日（火）10：00～

4. 山形大学農学部・東北森林管理局連携シンポジウム「森林・林業・山村の再生と新たな森林管理システム」について

日時：2019年1月25日（金）13：00～15：15

会場：鶴岡キャンパス 農学部301講義室

5. 「平成30年度 第8回やまがた教員シンポジウム」を開催します

日時：2019年2月3日（日）13：30～16：45

会場：山形国際ホテル

[裏面へ](#)

6. **国際シンポジウム「日台における宗教と思想研究」開催**
～日本と台湾の仏教と儒学に注目して～

日 時：2019年2月10日(日)13:00～

会 場：小白川キャンパス C1(人文社会科学部1号館)201教室

7. **モンテディオ山形杯「雪中棚田サッカー大会in大蔵2019」の開催について**

モンテディオ山形を起点とした元気な地域づくりに貢献することを目的に大学コンソーシアムや
まがた等の主催で開催している雪中サッカー大会を開催します。

日 時：2019年2月16日(土)8:30～13:30

会 場：山辺町大蔵の棚田

これまでの定例会見でお知らせしたもので、開催が迫っているイベント

山形大学造形芸術コースの学生による卒業・修了制作展

学 部 生：山形県郷土館 文翔館(山形市旅籠町3丁目4-51)

2019年1月17日(木)～1月24日(木)

大学院生：山形大学附属博物館(山形市小白川キャンパス)

2019年1月17日(木)～2月27日(水)

2019年1月17日

平成31年度大学入試センター試験の取材について - 大学入試センター試験の円滑な実施に御協力をお願いします。 -

【本件のポイント】

山形大学では、小白川キャンパス、米沢キャンパス、県立鶴岡中央高等学校、県立新庄神室産業高等学校の4会場で実施します。

取材される場合は、1月17日（木）正午までに各試験場担当者に御連絡願います。

【概要】

平成31年度大学入試センター試験は、1月19日（土）、20日（日）に全国の大学入試センター試験利用大学等を会場として実施されます。

本学は、小白川地区試験場（小白川キャンパス）、工学部試験場（米沢キャンパス）、県立鶴岡中央高等学校試験場（鶴岡市）、県立新庄神室産業高等学校試験場（新庄市）にて実施します。

取材に当たっては、事前に各試験場責任者の許可を得た上で行っていただきますよう試験の円滑な実施に御協力をお願いします。

【志願者数】

小白川地区試験場：1,827人

工学部試験場：744人

県立鶴岡中央高等学校試験場：484人

県立新庄神室産業高等学校試験場：276人

【小白川地区試験場の取材について】

1月19日（土）午前9時5分からの試験室内での撮影をされる場合は、基盤教育3号館交流スペース（別紙参照）に午前8時55分（時間厳守）までにお集まり願います。

車で入構される場合は、大学の南門から入り、所定の報道関係者駐車場（別紙参照）に駐車してくださいますよう願います。

なお、大学正門は、受験者の入構のため、車等の乗り入れは禁止となっておりますので、ご協力方よろしく願います。

試験場での取材・撮影のお申し込みは、1月17日（木）正午までに各試験場担当者までお申し込み願います。

お問い合わせ

エンロールメント・マネジメント部入試課
矢萩

TEL 023-628-4142

平成31年度大学入試センター試験の取材について

- 大学入試センター試験の円滑な実施にご協力をお願いします。 -

山形大学

1 報道関係の窓口

報道関係者への対応は、本学の試験実施本部の広報担当者が行いますので、試験に関する問合せ等については、エンロールメント・マネジメント部入試課長（023-628-4140）へお願いします。

2 試験場での取材

試験場での取材は、あらかじめ許可を得てください。

取材の際は、各社記者証を提示し、腕章等で報道関係者であることを明示してください。

3 試験室内での撮影

試験室内での撮影は、1月19日（土）のみとし、試験場責任者の指定する職員の立会いのもとで行ってください。

(1) 大学入試センター試験の撮影については、1月17日（木）正午（厳守）までに各試験場責任者の了承を得てください。

・小白川地区試験場責任者 ... 小白川キャンパス長

（連絡先：小白川キャンパス事務部入試課 023-628-4072）

・工学部試験場責任者 ... 米沢キャンパス長

（連絡先：米沢キャンパス事務部学務課入試担当 0238-26-3013）

・県立鶴岡中央高等学校試験場責任者 ... 鶴岡キャンパス長

（連絡先：鶴岡キャンパス事務室学務担当 0235-28-2808）

・県立新庄神室産業高等学校試験場責任者 ... 東北文教大学・同短期大学部入試広報センター長

（連絡先：東北文教大学・同短期大学部入試広報センター課長 023-688-2296）

(2) 1月19日（土）は、午前8時55分まで報道関係者控室等に集合してください。

(3) 撮影は、試験場責任者が指定した試験室でのみ許可することとします。

(4) 撮影時間は、午前9時5分から10分以内とします。

必ず午前9時15分には退室してください。

(5) 撮影に当たっては、受験者に動揺を与えないよう注意するとともに、試験場責任者の指定する職員の指示に従ってください。

(6) 受験者が特定できるような撮影は、絶対に避けてください。

(7) 本学が指定する試験室以外の「試験室」及び「試験室のある建物」への立ち入りはできません。

4 障害等のある受験者の取材

障害等のある受験者の取材については、あらかじめ本人の了解を得る必要がありますので、試験場責任者の指示に従ってください。

5 不測の事態発生時の取材について

不測の事態が発生して、試験が中止された場合などにおいても、必ず試験場責任者の指定する職員の指示に従ってください。

- 6 当日の試験実施状況()は、以下の時間にエンrollment・マネジメント部入試課から報道各社へFAX送信予定ですので、円滑な試験実施のため、試験時間中の問合せはご遠慮ください。
発表時間はあくまでも予定ですので、あらかじめご了承ください。

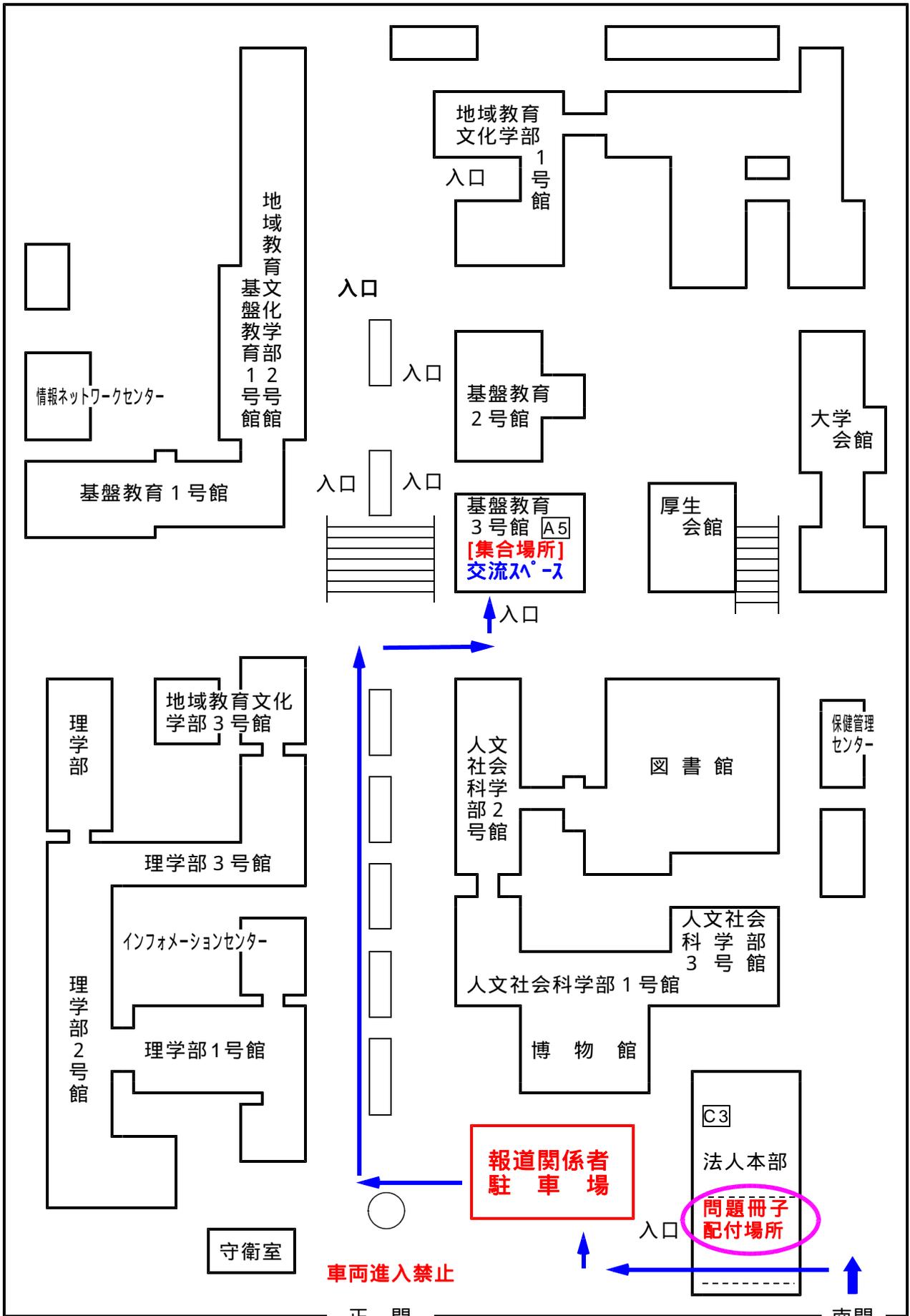
区分	1月19日(土)				1月20日(日)			
科目	地理歴史, 公民	国語	外国語 (筆記)	英語 (リスニング)	理科	数学	数学	理科
発表予定 時間	13:20 以降	16:10 以降		18:20 以降	13:20 以降	16:05 以降		17:55 以降

() 志願者数, 欠席した者の人数, 受験した者の人数をお知らせします。

7 問題冊子及び科目別正解の発表

- (1) 問題冊子は、各試験時間終了後に各試験場で配付します。
- (2) 正解及び配点は、試験終了後、大学入試センターにおいて、大学入試センターのホームページを通じて発表します。

小白川地区試験場報道関係者駐車場等配置図



正門からの車の出入りはできません。南門から入構してください。

2019年1月17日

エリアキャンパスもがみ 活動報告会を新庄市で初開催

【本件のポイント】

- 最上地域をバーチャルキャンパスとして開講しているフィールドラーニングの活動報告会を新庄市で初めて開催します。
- 平成30年度後期に開講した7つのプログラムに参加した学生らが活動で感じたこと、考えたことについて報告します。



【概要】

「エリアキャンパスもがみ」は平成17年(2005年)3月22日に山形大学と最上地域における教育・研究・社会貢献、そして地域活性化に資するために設立されました。あわせて、平成18年度からこのエリアキャンパスもがみをフィールドとして基盤共通教育の集中講義を毎年開催してまいりましたが、これまでに受講した学生は延べ3,200人にのぼります。

そして、10年を超えるこの活動の中で初の試みとして、今年度後期に開講された「フィールドラーニング-共生の森もがみ」を受講した学生による活動報告会を、新庄市内で開催します。これまでは、小白川キャンパス内で学生と授業の関係者だけを対象として開催してまいりましたが、学生達が最上地域での活動を通して感じたこと、考えたことを、ぜひ最上地域の皆様にも知っていただきたく、広く一般の方を対象として新庄市内で開催することとしたものです。

【フィールドラーニング-共生の森もがみ 活動報告会】

開催日時：2019年1月26日(土) 14時~16時(開場13時30分)

会場：新庄市民プラザ 大ホール

場料：無料(どなたでも参加いただけます)

プログラム：

1. 開会の挨拶 山形大学エリアキャンパスもがみ キャンパス長 玉手英利
2. 学生発表 以下()内は受け入れ市町村
 - (1) 「里山保全とキノコ料理」(戸沢村)
 - (2) 「七所明神伝説と地域活動のあり方を探る」(新庄市)
 - (3) 「新庄市の市報を創ってみよう!!」(新庄市)
 - (4) 「山里の秋を体感しよう」(金山町)
 - (5) 「森と人との共存を考える ~山間地の文化を探り地域振興へ~」(金山町)
 - (6) 「最上町の人・自然・文化に触れよう」(最上町)
 - (7) 「子どもの自然体験活動支援講座2」(真室川町)
3. 講評 教育開発連携支援センター長 教授 小田隆治
4. 閉会の挨拶 山形大学エリアキャンパスもがみ最上事務局長 森洋一

お問い合わせ

小白川キャンパス事務部教務課教育企画担当(佃、八柳)

TEL 023-628-4707 メール acmogami@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

山形大学 エリアキャンパス もがみ



フィールドラーニング

共生の森もがみ活動報告会

2019.1.26(土)

14:00～16:00(開場 13:30)

入場
無料

場所：新庄市民プラザ 大ホール

【申込期限】
2019年
1月22日(火)
まで

●次 第

1. 開会の挨拶 山形大学エリアキャンパスもがみ キャンパス長 玉手 英利
2. 学生発表
(1) プログラム⑨ 里山保全とキノコ料理(戸沢村)
(2) プログラム① 七所明神伝説と地域活動のあり方を探る(新庄市)
(3) プログラム③ 新庄市の市報を創ってみよう!!(新庄市)
(4) プログラム④ 山里の秋を体感しよう(金山町)
(5) プログラム⑤ 森と人との共存を考えるⅡ～山間地の文化を探り地域振興へ～(金山町)
(6) プログラム⑥ 最上町の人・自然・文化に触れよう②(最上町)
(7) プログラム⑧ 子どもの自然体験活動支援講座2(真室川町)
3. 講 評 教育開発連携支援センター長 教授 小田 隆治
4. 閉会の挨拶 山形大学エリアキャンパスもがみ 最上事務局長 森 洋一

お申込・お問合せ先

山形大学エリアキャンパスもがみ担当
TEL. 023-628-4707 FAX. 023-628-4720
E-mail acmogami@jm.kj.yamagata-u.ac.jp



山形大学地域教育文化学部の前身、山形師範学校出身の藤沢周平氏や山形県川西町出身の井上ひさし氏などの時代小説・歴史小説の主要な舞台となった江戸の面影残る東京で、町歩きと落語口演を実施します。

第一部 本郷・茗荷谷町歩き

山本陽史教授をナビゲーターに大名屋敷の跡地や坂が多く残る文京区を歩きます。江戸から明治にかけて活躍した人物、例えば東北出身の伊藤忠太（建築家、米沢出身）・石川啄木・金田一京助・宮沢賢治など、そして滝沢馬琴や樋口一葉など文学者ゆかりの地を巡り、かつての賑わいに思いをはせましょう。（歩行距離約3km）

※荒天時にはコース変更、中止にする場合があります

- 開催時間 10:00～11:45（A班）／13:00～14:45（B班）
- 予定コース 東京メトロ南北線東大前駅～東京大学（元加賀前田家上屋敷、伊東忠太設計の正門、三四郎池）～一葉桜木の宿跡～赤心館跡（金田一京助下宿）～菊富士ホテル跡～宮沢賢治旧居跡～講道館（日本初のIOC委員嘉納治五郎が創設）～★～深光寺（滝沢馬琴墓）～お茶の水女子大学（元磐城平藩安藤家下屋敷）

★東京メトロ（後楽園～茗荷谷）利用時の交通費は各自ご負担ください

第二部 桂伸治師匠 落語口演・対談「落語に探る江戸・明治の面影」

- 開催時間 15:00～16:30 ●会場 お茶の水女子大学共通講義棟2号館101

かつらしんじ
桂伸治

東京都生まれ

1974年4月
二代目桂伸治に入門
前座名は桂平治
1979年4月
平治のまま二ツ目昇進
1989年4月
真打ち昇進と同時に
「三代目桂伸治」襲名



やまもとひろふみ
山本陽史

和歌山県生まれ

山形大学教授
（日本文学）
1988年3月
東京大学人文科学研究科
博士課程 単位取得退学
近世日本文学者、
小説家藤沢周平の研究者
として活躍中

平成31年3月8日(金)

10:00～16:30

※時間は参加方法によって異なります

イベント内容

- 定員 第一部 A班、B班 各40名
第二部 100名
- 参加費 第一部 500円（保険料等・当日現金でいただきます）
第二部 無料

※お申込方法は裏面申込書をご参照ください

集合場所・会場のご案内

- 第一部集合場所 東京メトロ南北線 東大前駅
- 第二部会場 お茶の水女子大学（東京メトロ丸ノ内線茗荷谷駅より徒歩7分）

※会場へのお問い合わせはご遠慮ください。詳細は参加決定の際にお知らせします。

後援

お茶の水女子大学

お問い合わせ

山形大学総務部総務課広報室

TEL : 023-628-4008

FAX : 023-628-4013

E-mail : koho@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

文学と歴史の舞台 江戸・東京を歩く

平成30年度山形大学特別イベント

2/5(火)
10:00
受付開始



山形大学
Yamagata University

< 申込先 > 山形大学総務部総務課広報室

FAX : 023-628-4013 E-mail : koho@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

「文学と歴史の舞台 江戸・東京を歩く」申込書

お申込の際は、以下に必要事項をご記入の上、ファックスをお送りいただくか、以下の情報を入力してE-mailをお送りください。

なお、受付開始は**平成31年2月5日(火)午前10時**です。それ**以前**のお申込は**無効**となりますのでご注意ください。

ふりがな		性別
お名前 (生年月日)	(年 月 日生)	男・女
ご住所	〒 -	
連絡先電話番号	ご自宅： - - 携帯電話： - -	
E-mail アドレス	@	
備考		

第一希望	第二希望	参加希望コースについて第二希望まで左の 太枠 欄に○をご記入ください			
		コース名	10:00～11:45	13:00～14:45	15:00～16:30
		町歩きA	第一部：町歩き	(自由行動)	第二部：落語口演・対談
		町歩きB	—————	第一部：町歩き	第二部：落語口演・対談
		二部のみ	—————	—————	第二部：落語口演・対談

※AまたはBのどちらかが定員に達した場合は、定員の空きのあるコースへ割り振らせていただきます。
ご一緒にお申込の方がいらっしゃる場合は、備考欄にお名前をご記入ください。同じコースに割り振ります。
(お一人様につき一件のお申込が必要です。お申込はお一人様ずつお願いいたします。)

※E-mail アドレスの欄に携帯電話のアドレスをご記載の場合は、koho@jm.kj.yamagata-u.ac.jpからのメールを受信できるように設定をお願いいたします。

※今回ご記載いただいた個人情報はこの催しに関する事務処理のみに使用いたします。

※町歩きは、安全な道・場所を引率者が配慮の上、ご案内いたしますが、参加は自己の責任でお願いいたします。
(仮に自己の責任に基づく事故・怪我があった場合、主催者側は責任を負いかねます。)



山形大学農学部・東北森林管理局
平成30年度連携シンポジウム

森林・林業・山村の再生と 新たな森林管理システム

2019 **1.25** Fri **13:00-15:15**

山形大学農学部301講義室(鶴岡市若葉町1-23)

参加無料
申込不要

◆講演

東北森林管理局企画調整課 課長	深谷 俊宏 氏
山形県庄内総合支庁産業経済部産業整備課 課長補佐	志藤 彰 氏
山形県庄内総合支庁産業経済部産業整備課 林政主査	森 貴之 氏
山形県森林組合連合会 代表理事常務	渡邊 真司 氏
株式会社山形城南木材市場 代表取締役会長	安部 政昭 氏

◆パネルディスカッション

〈コーディネーター〉

山形大学 准教授 小川 三四郎 (林政学/農学部担当)



山形大学と東北森林管理局は、平成23年度に相互扶助を目的とした連携協定を締結しました。我が国の森林・林業の現状について広く多くの方に知っていただくため、シンポジウムを開催します。
参加無料・申込不要です。どうぞお気軽にご参加ください。

〈お問い合わせ〉山形大学農学部企画広報室

電話：0235-28-2910・2911 / E-mail：nosenken@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

PRESS RELEASE

2019年1月17日

「平成30年度 第8回やまがた教員シンポジウム」を開催します

【本件のポイント】

山形県教員養成140年の歴史を振り返り、「山形の教育と教員養成のこれまでとこれから」と題してシンポジウムを開催します。

第1部では、東北大学大学院教育学研究科教授の八鍬友広氏からご講演いただきます。

第2部では、山形大学、東北文教大学教員並びに学生・卒業生をパネラーとしてパネルディスカッションを実施します。



【概要】

平成30年度第8回やまがた教員養成シンポジウムを開催します。今回は、山形県教員養成140年の歴史を振り返り、「山形の教育と教員養成のこれまで・これから」と題して、第1部では、八鍬友広氏から講演いただき、第2部ではパネルディスカッションを実施します。

【日時】

2019年2月3日(日) 13:30~16:45

【会場】

山形国際ホテル

【タイムスケジュール】

第1部 13:40~

「学校の時代」と人間

八鍬 友広氏(東北大学大学院教育学研究科教授)

コーディネーター：出口 毅(山形大学副学長・地域教育文化学部長)

第2部 15:00~

パネルディスカッション

養成大学のこれまでとこれから

これからの担い手として：学生等の学びから

コーディネーター：安藤 耕己(山形大学准教授)

パネラー：山形大学、東北文教大学教員並びに学生・卒業生

【申込み】

事前申込みは必要ありません。教育に関心のあるたくさんの方々の参加をお待ちしております。

参加料無料

主催 山形大学地域教育文化学部

公益財団法人やまがた教育振興財団

共催 東北文教大学

お問い合わせ

山形大学小白川キャンパス事務部総務課学部総括担当

TEL：023(628)4304

第1部^{13:40~}

「学校の時代」と人間

八鍬友広氏

(東北大学大学院教育学研究科教授)

コーディネーター：

出口 毅 (山形大学副学長・地域教育文化学部長)

第2部^{15:00~}

パネルディスカッション

コーディネーター：安藤 耕己 (山形大学准教授)

パネラー：山形大学、東北文教大学教員並びに
学生・卒業生

①養成大学のこれまでとこれから

②これからの担い手として：

学生等の学びから

日時

2019年 2月3日(日) 13:30~16:45

会場

山形国際ホテル

参加料は無料です。

事前の申し込みは必要ありません。教育に関心のあるたくさんの方々の参加をお待ちしております。

主催 山形大学地域教育文化学部
公益財団法人やまがた教育振興財団

共催 東北文教大学

問い合わせ先

山形大学小白川キャンパス事務部総務課学部総括担当

TEL：023 (628) 4304

山形県教員養成140年の歴史
山形の教育と教員養成のこれまで・これから

2019年1月17日

国際シンポジウム「日台における宗教と思想研究」開催 ～日本と台湾の仏教と儒学に注目して～

【本件のポイント】

台湾から2名の研究者を招聘し、宗教と思想に関するシンポジウムを開催。
近年注目されている台湾について、日本との関わりを学術的に深く追求していく。
台南市と友好都市になる等、台湾との交流を推進している山形市の取り組みを、地元大学として学術的な立場から応援していく。



【概要】

台湾はアジアにおける親日国として知られ、多くの日本人が訪問しています。とはいえ、日本人の台湾理解は表面的なものにとどまっており、とりわけ台湾の人々の根幹に関わる宗教や思想については、ほとんど理解できていないと言わざるを得ません。

一方で、日本語には仏教由来の言葉が多く見られることからわかるように、日本文化は多くの場合、仏教によって規定されています。しかしながら、その仏教についても日本人・台湾人ともに十分に理解しているとは言いがたいのが実情です。

そこで、本シンポジウムでは、日台双方における宗教・思想研究の現在について討論することによって、相互理解の深化と交流の進展を目指します。

【日時】

2019年2月10日(日) 13:00～

【場所】

山形大学小白川キャンパス人文社会科学部 201 教室

【講演者・題目】

松尾剛次(山形大学)

「日本仏教の特徴とは何か」

佐藤将之(台湾・国立台湾大学)

「二十一世紀儒教思想研究の展望 『荀子』研究を起点として」

陳玉女(台湾・国立成功大学)

「近現代における台湾仏教発展の転換 特に1945 - 1950年代を中心にして」

【主催】

山形大学都市・地域学研究所

【申し込み】

参加ご希望の方は、電話(平日午前中のみ)または電子メールにて、お名前とご連絡先をお知らせください。定員(60名)に達した場合、申し込みを締め切ることになります。参加費は無料です。

電話 023-628-4871(平日午前中のみ) 電子メール kmatsuo@human.kj.yamagata-u.ac.jp

お問い合わせ

学術研究院教授 中澤信幸(日本語学)

TEL 023-628-4822 メール nakazawa@human.kj.yamagata-u.ac.jp

国際シンポジウム

日台における宗教と思想研究

— 仏教と儒学に注目して —

日時：平成三十一年二月十日（日）午後一時～（十二時半開場）

場所：山形大学小白川キャンパス

人文社会科学部一号館二〇一教室

〈講演〉

松尾剛次（山形大学）

日本仏教の特徴とは何か

佐藤将之（台湾・国立台湾大学）

二十一世紀儒教思想研究の展望

— 『荀子』研究を起点として —

陳玉女（台湾・国立成功大学）

近現代における台湾仏教発展の転換

— 特に1945-1950年代を中心にして —

台湾はアジアにおける親日国として知られ、多くの日本人が訪問しています。とはいえ、日本人の台湾理解は表面的なものにとどまっており、とりわけ台湾の人々の根幹に関わる宗教や思想については、ほとんど理解できていないと言わざるを得ません。

一方で、日本語には仏教由来の言葉が多く見られることからわかるように、日本文化は多くの場合、仏教によって規定されています。しかしながら、その仏教についても日本人・台湾人ともに十分に理解しているとは言いがたいのが実情です。

そこで、本シンポジウムでは、日台双方における宗教・思想研究の現在について討論することによって、相互理解の深化と交流の進展を目指します。

主催：山形大学都市・地域学研究所

共催：日台政策研究所

【お申し込み方法】

参加ご希望の方は、電話（平日午前中のみ）または電子メールにて、お名前とご連絡先をお知らせください。定員（60名）に達した場合、申し込みを締め切ることにいたします。

電話 023-628-4871（平日午前中のみ）

電子メール kmatsuo@human.kj.yamagata-u.ac.jp

●講師紹介●



陳玉女 Chen Yuh-Neu
台湾・彰化県王功生まれ。九州大学東洋史博士。現在台湾・国立成功大学歴史系教授、文学院院长。主な研究領域は中国明代仏教史、明代社会史。著書は『明代仏教社会の地域的研究—嘉靖・萬曆年間(1522～1620)を中心として—』（博士論文）、『明代二十四衙門宦官與北京佛教』、『明代佛門内外僧俗交渉の場域』、『明代的佛教與社會』、『海洋與觀音：明代東南沿海的觀音信仰』など。また「明倭寇の乱における寺院の遭遇及び其の社会救済—嘉萬年間東南沿海地域を考察の中心にして—」、「明末清初觀音與準提の信仰流布」、「明清閩南家族與佛教的社會救済」、「流浪者之歌：明末遺民・移民的寺廟記憶」など明代仏教關係の論考多数。



佐藤将之 Sato Masayuki
1965年川崎市生まれ。オランダ・ライデン大学漢学研究科博士。ライデン大学講師を経て、現在台湾・国立台湾大学哲学系教授。主な研究領域は、中国先秦時代の政治観念、諸子思想、荀子哲学、東アジア比較政治思想史など。『The Confucian Quest for Order: The Origin and Formation of the Political Thought of Xun Zi』（Leiden: Brill、2003）、『中國古代的「忠」論研究』（台北：臺大出版中心、2010）、『荀子禮治思想的淵源與戰國諸子之研究』（同上、2013）、『參於天地之治：荀子禮治政治思想的起源與構造』（同上、2016、上記『Confucian Quest』の中国語訳）、『荀學與荀子思想研究：評析・前景・構想』（台北：萬卷樓、2014）など、著書・論考多数。



松尾剛次 Matsuo Kenji
1954年長崎県生まれ。東京大学文学博士。山形大学人文社会科学部教授。山形大学都市・地域学研究所所長。日台政策研究所理事長。東京大学文学部国史学科卒業、同大学院人文科学研究科博士課程中退。専門は日本宗教史、中世都市論、戦国大名論など。また山形県大石田町の町づくりアドバイザーを務める。著書は『新版 鎌倉新仏教の成立』（吉川弘文館1998）、『仏教入門』（岩波書店1999）、『破戒と男色の仏教史』（平凡社2008）、『葬式仏教の誕生』（平凡社、2011）ほか多数。

アクセス

山形大学小白川キャンパス

〒990-8560 山形県山形市小白川町 1-4-12

・JR 山形駅から

東方へ約 2km（徒歩約 25分）

ベニちゃんバス「東くるりん 東原町先回りコース」で「山大前」下車（所要時間約 9分）

市内路線バス「県庁前・県庁北口」行きで「南高前・山大入口」下車（所要時間約 6分）、そこから徒歩約 7分

・JR 仙台駅から

高速バス「山形行き」で「南高前・山大入口」下車（所要時間約 55分）、そこから徒歩約 7分



※駐車場はありません。公共交通機関をご利用ください。

2019年1月17日

モンテディオ山形杯 「雪中棚田サッカー大会in大蔵2019」の開催について

【本件のポイント】

モンテディオ山形を起点とした元気な地域づくりに貢献することを目的に
2012年から開催しており、今回で8回目。

「棚田での雪中サッカー」という新たなサッカーの楽しみ方を提案。

優勝チームには、棚田米1俵を贈呈。



【概要】

モンテディオ山形杯「雪中棚田サッカー大会」を今年も開催いたします。この大会は、「モンテ棚田米発祥の地」である山辺町大蔵の棚田の中でサッカーを行うことを通して、モンテディオ山形のチームとサポーター、サッカーファン、そしてモンテディオ山形のホームタウン住民が交流を深める場を創出するとともに、「棚田での雪中サッカー」という新たなサッカーの楽しみ方を体験してもらうことで、モンテディオ山形を起点とした元気な地域づくりに貢献することを目的として、大学コンソーシアムやまがた等の主催で開催しており、今回で8回目となります。優勝チームには、棚田米1俵が贈られます。

参加チームは、会社の同僚、学生仲間など様々ですが、昨年度はアルピレックス新潟のサポーターで構成するチームが参加するなど、雪の棚田で熱い戦いが繰り広げられます。競技終了後は選手約80人、スタッフ40人が「わらび汁」を囲んでの和やかな交流会もあり、これを楽しみに参加するチームもあるなど年々盛り上がる大会となっています。

【雪中棚田サッカー大会in大蔵2019】

日 時：平成31年2月16日（土）8:30～13:30

会 場：山辺町大蔵の棚田

参加費：1チーム 3,000円（昼食時に提供する「わらび汁」代等含む。）

参加対象：中学生以上

募集チーム数：先着10チーム（6人でエントリーし、試合は5人が出場する。）

競技方式：3チームずつ4グループに分かれてのリーグ戦

（内2チームはモンテディオ山形ジュニアユースチームが参加。）

試合形式：フットサルに準じた特別ルールを採用、6分ハーフ制

景 品：優勝チームへ棚田米 1俵(60kg)

参加賞：各チームに舞米豚

主 催：大学コンソーシアムやまがた、中地区有志の会、グループ農夫の会

後 援：山辺町

協 力：公益社団法人山形県スポーツ振興21世紀協会、(株)モンテディオ山形、山形県

お問い合わせ先

大学コンソーシアムやまがた事務局（齋藤）

TEL 023-628-4842 メール unicon@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

参加チーム大募集

モンテディオ山形杯 雪中棚田サッカー大会in大蔵2019



優勝チームには
棚田米 1 俵 (60kg) 贈呈!!

2019
2/16(土) 8:30~13:30
山辺町大蔵の棚田

■スケジュール

- 8:30 受付
- 8:45 開会式
- 9:00 ウォーミングアップ
- 9:30 予選リーグ(8試合)
- 11:45 決勝・3位決定戦
- 12:10 閉会式
- 12:30 昼食会
- 13:30 解散

- 参加費: 1チーム3,000円
- 対象: 中学生以上
- 募集チーム数: 先着10チーム
- 参加賞: 各チームに舞米豚

申込み締切
2月5日(火)
16:00まで

主催: 大学コンソーシアムやまがた、中地区有志の会、グループ農夫の会
後援: 山辺町
協力: 公益社団法人山形県スポーツ振興21世紀協会、(株)モンテディオ山形、
山形県

詳細は裏面へ→

モンテディオ山形杯 雪中棚田サッカー大会 in 大蔵2019 参加者募集

1. 目的
「モンテ棚田米発祥の地」である山辺町大蔵の棚田の中でサッカーを行うことを通して、モンテディオ山形のチームとサポーター、サッカーファンそしてモンテディオ山形のホームタウン住民が交流を深める場を創出するとともに、「棚田での雪中サッカー」という新たなサッカーの楽しみ方を体験してもらうことで、モンテディオ山形を起点とした元気な地域づくりに貢献します。
2. 日時
2019年(平成31年) 2月16日 (土) 8:30-13:30
3. 会場
山辺町大蔵の棚田
【駐車場等については、当日、中支所・中公民館付近(山辺町大字大蔵1164-1)からスタッフが案内いたしますが、場所に限りがありますことから相乗りでお越しいただくなど、ご協力願います。】
4. 主催・共催・協力
主 催：大学コンソーシアムやまがた、中地区有志の会、グループ農夫の会
後 援：山辺町
協 力：公益社団法人山形県スポーツ振興21世紀協会、(株)モンテディオ山形、山形県
5. 参加費 (昼食時に提供する「わらび汁」代等含む。)
1チーム 3,000円
6. 参加対象
中学生以上
7. 募集チーム数
先着10チーム(6人でエントリーし、試合は5人が出場する。5人のうち1人はゴールキーパー。)
8. 内容
競技方式：予選／3チームずつ4コートに分かれてリーグ戦を行う。(内2チームはモンテディオ山形のジュニアユースチームが参加)
決勝／各コートの上位1チームでトーナメント戦を行い優勝を決める。負けたチーム同士で、3位決定戦を行う。
試合形式：フットサルに準じた特別ルールを採用、6分ハーフ制
景 品：優勝チームへ棚田米 1俵 (60kg)
参 加 賞：各チームに地元山辺産のお米を食べて育った「舞米豚」
服 装：原則、長靴を使用する。雪上での大会ですので、温かい格好でご参加ください。
持 ち 物：おにぎり、飲み物等ご持参ください。(昼食に「わらび汁」を提供します。)
※その他、当日の日程については表面をご覧ください。
9. 参加申し込み (必ずチームでお申し込みください。)
参加者全員の ①お名前 ②年齢 ③性別 ④代表者のメールアドレスと電話番号 ⑤チーム名 ⑥チームのプロフィールを書いて(記載形式自由)、FAXまたはメールで下記の「お申込先」までお送りください。
申込締切は 2月5日(火) 16:00まで。 参加費は当日受付でお支払いください。

【お申込先】大学コンソーシアムやまがた (FAX:023-628-4820 / E-mail: unicon@jm.kj.yamagata-u.ac.jp)

～モンテディオ山形杯～ 雪中棚田サッカー大会in大蔵2019【参加申込書】

氏 名 <フリガナ>	年 齢	性 別	代表者の連絡先(メルアド及び携帯)
1. <small>[代表者名]</small>			E-mai: _____ TEL: _____
2. _____			チーム名/チームのプロフィール(当日のパフレットに掲載)
3. _____			<small>[チーム名]</small>
4. _____			<small>[プロフィール]</small>
5. _____			
6. _____			